

いよいよ南北が、つながる。 もっと富山が、ひろがる。

3月21日、1908年の富山駅開業以来「100年の夢」であった、路面電車の南北直通運転が始まります。これまで携わられてきた指導官、技術者、運転士の三者に、それぞれの立場における苦労や思いなどをお聞きました。

知と技で、つながる。

谷口 南北接続の鍵となるのは、富山ライトレールの開業です。駅北に高層ビルや劇場などが誕生した2000年頃、南北の分断を解消するために、北陸線の高架化が決定しました。一方の富山港線は、路面電車として生まれ変わることになったんです。その発想は、南側に市内電車があったからこそ生まれたものといえるでしょう。ただ、私たちに与えられた時間は3年しかなく、構想を具体的に描ける人たちを探し出し、技術や知見を専門の方から教わるなど、いろいろなことをゼロから取り組んできました。多くの方々のご協力を得て無事開業してから14年。富山ライトレールが市内電車とつながる夢のビジョンを、この目で見られることが大変嬉しいのです。

多喜 レール工事は、極めて精緻な世界です。仕上がりがわずか数ミリずれるだけで電車の走行やレールの接続に



佐藤 忠さん

多喜 正樹さん

谷口 博司さん

大きな支障をきたしてしまうため、レールを留める位置や高さ、その母体となる路盤の精度に神経を使わなければいけません。もうひとつ苦労したのは、運行中の電車や一般車の走行に迷惑をかけないように、夜間の限られた時間に工事を効率よく進めることでした。予定通り接続できた軌道は、とにかく音が静かですので、ぜひ乗車して体感してください。

佐藤 お二人のご苦労を聞いて身に染みました。この事業を運転士として引き継ぎ、安心・安全をモットーにお客様を目的地まで無事にお届けしていきたいという決意です。開業が近くなるにつれて、お客様から「待ち遠しい」という声をよく聞くようになりました。市民の方々にとって、南北直通は本当に喜ばしいことでしょう。車椅子の方や高齢者の方の行動範囲もより広がりそうですね。

これからが、進化の始まり。

佐藤 立山連峰に肩を並べるほど富山を象徴する景観として、またさまざまな人が利用し、誰とでも気軽に話せる空間として、路面電車は富山なくてはなら

ない存在です。これからも常に安全運転を心がけていきます。

多喜 365日安全運行できるよう、そして「停留場にいれば電車がくる」が当たり前のこととして継続できるように、これからも土台の管理担当として保守管理に努めていきます。

谷口 富山駅では、いくつもの事業が同時進行しています。駅だけでなく、高架下の自由通路や関連する駅施設などの工事が全て終わって初めて完成になります。路面電車がつながりますが、まだ北口・西口広場などの工事が残っています。日々進化し続ける富山駅も楽しみにしてください。



富山駅で接続工事を見守る多喜さん



ポータルムの運転席に座る佐藤さん

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング（驚くほど素敵）」な富山について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。

▶ 詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



▲WEBサイト
QRコード

谷口博司 (たにぐち ひろし) さん
市路面電車推進課 指導官
多喜正樹 (たき まさき) さん
富山地方鉄道(株) 土木課 課長(技術)
佐藤忠 (さとう ただし) さん
富山地方鉄道(株)(旧富山ライトレール(株)) 運転士